

令和6年度 第1回 沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会

日時：2024年10月2日（水）14:00～16:00

場所：沖縄こどもの国 チルドレンズセンター 2階

次 第

1. 開会
2. 要綱の制定について
3. 報告
 - 1) 沖縄市交通拠点整備基本構想について
 - 2) 沖縄市交通拠点まちづくりの検討について
 - 3) 「胡屋・中央地区交通拠点における賑わい創出の社会実験」について
4. 閉会

○配布資料

- ・ 沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会設置要綱（案）…………… 資料1
- ・ 沖縄市交通拠点整備基本構想について…………… 資料2
- ・ 沖縄市交通拠点まちづくりの検討について…………… 資料3
- ・ 胡屋・中央地区交通拠点における賑わい創出の社会実験…………… 資料4
- ・ 胡屋・中央地区交通拠点における賑わい創出の社会実験 実験計画書…………… 参考1

沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会設置要綱(案)

(設置)

第1条 沖縄市胡屋・中央地区における交通結節点及びその他周辺整備等（以下「沖縄市交通拠点まちづくり」という。）に係る沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案）（以下「基本計画」という。）の策定にあたり、専門的な知見等から幅広く意見聴取を行うことを目的として、沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、「沖縄市交通拠点まちづくり」について、様々な観点から検討及び協議し、意見を述べるものとする。

(委員会構成)

第3条 委員会は、市長が委嘱し、又は任命する委員をもって構成する。

2 委員の任期は、委嘱又は任命された日より沖縄市交通拠点まちづくりに係る基本計画の策定までとする。

3 委員会は別表に掲げる委員をもって構成する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長と副委員長を各1名置き、委員の互選でこれを定める。

2 委員長は、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

3 委員長は、必要があると認めるときには、委員会の会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

4 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長は、公開することにより公正かつ円滑な会議運営に著しい支障が生ずると認められるなど、特別な理由がある場合には、非公開とすることができる。

5 委員長は、やむを得ない理由により委員会を開くことが出来ない場合において、事案の概要を記載した書面を委員に配布し、その意見を徴することができる。

6 前項の規定により意見を徴した場合、委員長が次の委員会において報告しなければな

らない。

(代理出席)

第6条 委員がやむを得ず出席できない場合であって、市長が必要と認めたときは、委員は代理出席者を会議に出席させることができる。

(基本計画の策定)

第7条 市は、基本計画の策定にあたり、委員会で聴取した意見を十分に考慮するとともに、基本構想に反映させるよう努めるものとする。

(検討部会)

第8条 委員長は、必要に応じて検討部会を設置することができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、沖縄市建設部都市整備室都市交通担当において処理する。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和6年10月 日から施行する。

別表

分類	役割	所属	役職
学識者	委員	琉球大学	名誉教授
	委員	琉球大学工学部工学科 社会基盤デザインコース	准教授
市民・利用者	委員	胡屋自治会	会長
	委員	センター自治会	会長
	委員	中の町自治会	会長
	委員	まちづくりNPO コザまち社中	理事長
	委員	社会福祉法人 沖縄市社会福祉協議会	事務局長
	委員	一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会	会長
商業関係者	委員	沖縄市一番街商店街振興組合	理事長
	委員	沖縄市サンシティ商店街振興組合	理事長
	委員	沖縄市センター商店街振興組合	代表理事
	委員	コザゲート通り会	会長
	委員	コザパルミラ通り会	会長
	委員	胡屋大通り会	会長
	委員	合同会社イドムス	代表社員
	委員	沖縄商工会議所 中小企業振興部	部長
交通関係者	委員	一般社団法人 沖縄県バス協会	専務理事
	委員	沖縄バス株式会社	取締役運輸部長
	委員	東陽バス株式会社	運輸部部长
	委員	株式会社 琉球バス交通	代表取締役
	委員	一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	専務理事
行政	委員	内閣府沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	課長
	委員	内閣府沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課	課長
	委員	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 企画室	室長
	委員	内閣府沖縄総合事務局 南部国道事務所	副所長
	委員	沖縄県 企画部 交通政策課	課長
	委員	沖縄市 企画部	部長
	委員	沖縄市 建設部	部長
	委員	沖縄市 建設部	参事
	委員	沖縄市 経済文化部	部長
オブザーバー		内閣府沖縄総合事務局 南部国道事務所 管理第2課	課長
		独立行政法人 都市再生機構九州支社 沖縄まちづくり支援事務所 まちづくり支援課	課長

沖縄市交通拠点整備基本構想について

令和３年度

○交通・回遊機能などの検討（胡屋）

- ・ リニアバスターミナルを見直し、胡屋とコザで機能分担の整理

令和４年度

○基本構想（案）の検討整理

- ・ 第１回 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会 令和４年１１月９日
- ・ 胡屋バスターミナルを中心に、交通・回遊を踏まえた具体の取り組み方針等を整理
- ・ 現況把握のため、アンケート調査等を実施
- ・ 機運醸成に向けたワークショップ、講演会（オガール・岡崎氏）等を実施
- ・ 第２回 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会 令和５年５月２４日



ワークショップの様子



講演会の様子

令和５年度

○基本構想の策定に向けた検討（令和６年６月策定）

- ・ 第３回 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会 令和５年１１月３０日
- ・ 機運醸成に向けたワークショップ、講演会（東京大学・羽藤教授）等を実施
- ・ 沖縄市民を対象にパブリックコメントを実施
- ・ 第４回 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会 令和６年６月４日



ワークショップの様子



講演会の様子

沖縄市では、令和6年6月に基本構想を策定。今後は、将来像や実現する手段を具体化するため、基本計画（案）の検討を実施。

■基本構想 将来像及び基本方針

沖縄市中心市街地活性化基本計画 基本方針（第3期 R6.4～R11.3）

- （１）歴史文化やまちの個性、人々を魅了するエンターテインメントの力を活かしたにぎわいづくり
- （２）地域・住民・来訪者にとって快適で良好なまちづくり

交通拠点整備基本構想

将来像：KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

- 【方針①】誰もが楽しめる、居心地がいい場づくり
- 【方針②】まちとまちの結びつきを強くする場づくり
- 【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり
- 【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり
- 【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

① 沖縄アリーナ方面

- ・ スポーツを楽しみ、盛り上げる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

② 沖縄こどもの国方面

- ・ 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

胡屋バスターミナル機能

- 【基本機能】
- 【交通結節機能】
- 【防災機能】
- 【地域の拠点・賑わい機能】
- 【サービス機能】
- 【景観機能】

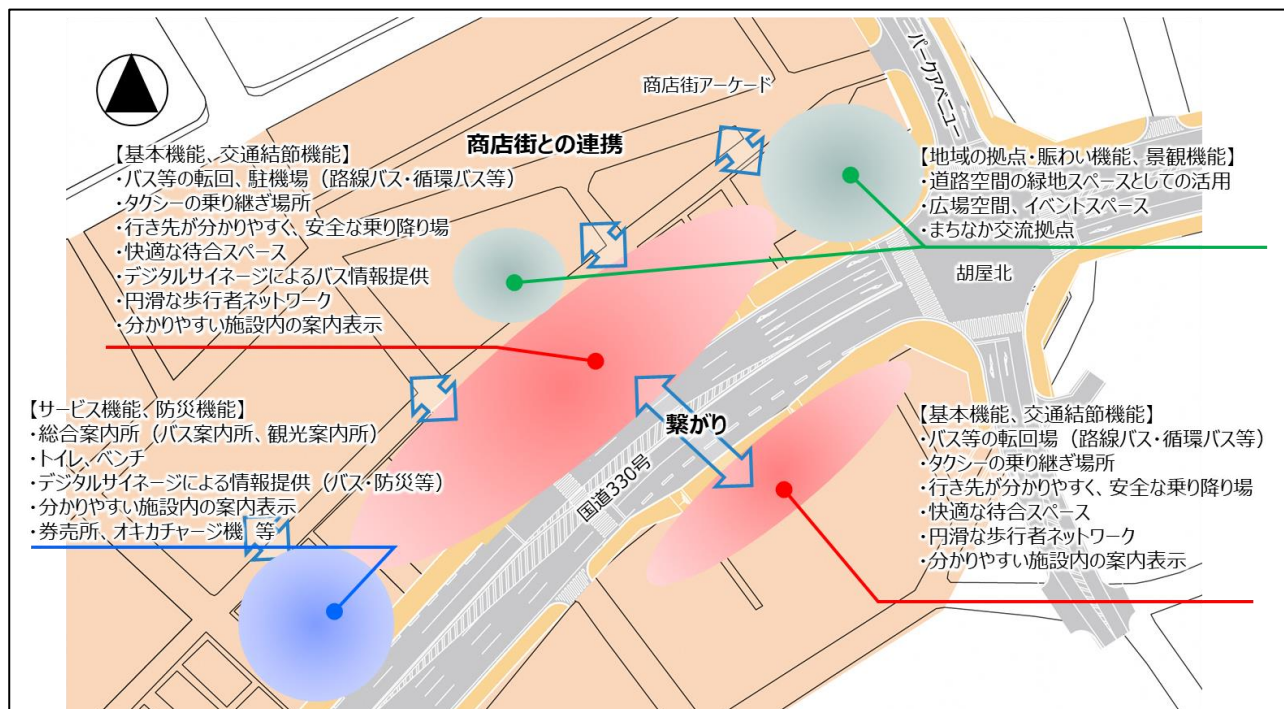
③ 一番街・八重島方面

- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

④ 沖縄市役所・コザ方面

- ・ 安心して暮らせる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出

■バスターミナル機能イメージ



交通拠点整備基本構想検討業務
第 4 回 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会

日時：令和 6 年 6 月 4 日（火）10:00～12:00
場所：沖縄こどもの国 チルドレンズセンター2 階

1. 開会
2. 委員の変更について
3. 報告 1) 前回までの議事要旨について
4. 報告 2) 沖縄市交通拠点整備基本構想（案）に関するパブリックコメントの結果
5. 議題 沖縄市交通拠点整備基本構想の策定について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄県 バス協会	検討されている基本構想について、実現性も考えて取り組まれていくのか教えていただきたい。	（事務局） - 実現させるために皆様のお力を借りながら取り組んでいるところであり、引き続き協力していただきたい。 （沖総局 開発建設部道路建設課） - 名護市および沖縄市のバスタ整備に向けて、令和 6 年度、国では調査段階がステップアップしている。基本構想の実現性は十分にあり、沖縄の交通の状況を考えると必要な取組と考える。 - バスタはあくまで結節機能であるため、整備だけでなく、まちの賑わい等をどうつくるか考えていくことが重要である。
胡屋 大通り会	- 必要となるバスタの広さとして、実際にどれだけ必要となるのか教えていただきたい。 - バスタ事業については、まち側も実現に期待しているため、ぜひ頑張っていたきたい。	（沖縄県バス協会） 速達性の面から上り方面にもバスタ機能が必要と意見した。必要な広さ等については、バス事業者とバスの乗り入れ方や本数等、具体的な調整が必要である。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
一番街 商店街	循環バス、観光バス、高速バスとの連携についての連携も考えているのか。また、他の場所でも乗り継ぎ機能等は必要となるのではないか。	(事務局) 様々な交通モードを集約し、他の交通モードに乗り換えができるのがバスタだと考えており、循環バスも含めてバスタ内部で乗り換えができるよう検討していきたいと考えている。
合同会社 イドムス	ウォークアブルな空間、回遊性の向上はバスターミナルを整備するだけでは生まれない。バスタに期待されることは、まちへの来訪者が増えることである。現在のイメージでは、商店街の中に誘導できない恐れがあると考えため、アーケード内を歩かせるような配置検討はできないか。	(事務局) - 沖縄市としては 40 ページのイメージを作ることを目指しており、商店街に面したところで乗り換えが可能な形にしたい。バスタ整備には様々な交通モードを集約する目的があり、そこに努めていきたい。 - アーケード内への誘導等は懸念事項として認識している。商店街の回遊性を高められるように引き続き意見交換していきたい。 (沖総局 開発建設部道路建設課) - 沖縄市や沖縄県、バス協会、バス事業者と意見交換しながら、必要となる機能を踏まえて検討を進めていく。 - また、ソフト的な取組を一体となって実施することが重要だと考えている。 (沖総局 南部国道事務所) - 面積の算出にあたり、将来のバス網を踏まえた検討も必要であるため、沖縄県基幹バス構想とも連携していきたい。 - 防災に関する位置付けについて、地域全体でどうするのか今後検討する必要がある。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
池田委員長	51 ページ、基本構想実現に向けたソフト施策においては、交通広場が記載されていない。背後地や将来鉄軌道駅による地下とのつながりを考えると機能が不足している印象がある。	(事務局) ご意見を踏まえ整理させていただく。
沖縄市 観光物産 振興協会	琉球ゴールデンキングス試合時の沖縄アリーナ周辺では交通問題が発生している。沖縄アリーナ周辺での乗降場が必要と考えているが、県庁前における観光バスの乗降問題について、現在の状況を把握していれば教えていただきたい。	(沖縄県バス協会) ご指摘についてはコロナ前から問題として認識している。沖縄県警に乗降禁止について相談したが規制には至らなかった。コロナ後である現在、問題となりつつある状況である。
神谷委員	- 沖縄本島全体での公共交通のネットワークの中で、胡屋・中央地区バスターミナルの機能、果たすべき役割等を整理し、どう位置づけるか検討が必要である。検討にあたり、沖縄県も入りながら、市民、県民、観光客の移動に関する必要機能について議論していくことが望ましい。 - バスターミナルを活用してもらうためには、胡屋・中央地区が魅力的な目的地となることも重要である。市民や商業関係者から意見をもらいながら、どのような支援が可能か考えていくことも大切である。	(事務局) キングスの後の胡屋への回遊増加を狙い、社会実験として夜間バスの運行を実施することを検討している。これによって、人流の変化があるか検証したい。
沖縄県 バス協会	深夜バスの運行については、酔客を輸送するのは非常に難しいことであるため、それらを考慮したうえで社会実験を検討していただきたい。運転手、添乗員の2名体制は必要と考える。	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄市 観光物産 振興協会	キングスの観戦客の 7 割程度が那覇から来訪していることから、空港や県庁周辺からてだこ浦西駅までモノレールで移動してもらい、沖縄アリーナまでのシャトルバスを運行するサービスを実施したが、利用者が少なかった。単発での取組であったため認知度が不足していたと考えており、継続が重要であると考えている。	(事務局) これまでの取り組みについて情報もいただきながら、手法を検討していきたい。
沖縄総局 開発建設部 道路建設課	- 県内の北部、中部、南部で一体となって、バスの交通をつくっていくことが、沖縄県の公共交通を整備していくうえで重要だと考える。 52 ページ、循環バスについて、沖縄アリーナ方面と市役所方面を八の字のルート結ぶ方法や、時間帯でルートを集約すること、乗り合いタクシーを発車していく等の方法があると思うので、社会実験を実施する際に検討していただきたい。	(事務局) 沖縄市の地域公共交通計画が改定時期になってきており、コミュニティバスの在り方等について市民に意見を募りながら、計画をつくっていきたい。その計画を踏まえて、胡屋の結節点を形成していきたいと考えている。
沖縄総局 運輸部 企画室	- 商店街を楽しみながら公共交通を使う魅力的なライフスタイルの提案を発信していくことで、地域住民や来訪者の行動変容に繋げられるよう連携して進めていきたい。 - 住民等のニーズや要望、理想の暮らしを聞き取りながら、それを実現できるものであるということを発信できるよう、住民との対話を大切にしていきたい。	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖総局 南部国道 事務所	深夜バスは、沖縄市へ訪れるメリットが無いと利用者が少なくなると懸念している。バス利用者に無料券を配布することやキングスに関連したサービス等のソフト施策も行いながら、胡屋のインセンティブを向上させることが必要であると考えており、商店街やキングス、沖縄アリーナから協力をいただきながら進めていきたいと考えている。	
沖縄県 企画部 交通政策課	- 基幹バス構想のバスレーンを胡屋まで延長することは、これまで進めてきている関係事業者や県警と調整事項を踏まえて、対応していきたいと考えている。 - 北谷では観光2次交通拠点の実証実験が予定されている。北谷からの貸切バスや観光事業者の情報を収集することや、北谷の商店街との連携も検討しては良いのではないかと。 51 ページ、商店街組織力強化事業について、商工労働部中小企業支援課で商店街の振興に資する予算を持っているため、意見交換しながら進めていきたい。	
池田委員長	今後の基本計画で検討できるように、ハード・ソフト施策の両方で概念的に広げられるように整理していただきたい。	(事務局) 新たな概念も取り入れて、柔軟に対応できるような計画づくりに努めたい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄市 経済文化部	5 ページ、沖縄市中心市街地活性化基本計画について、2024 年 3 月に第 3 期中心市街地活性化基本計画の認定をいただいた。本計画では 10 年間で約 40 事業を実施していく予定であり、交通拠点整備推進事業も据えている。 - 交通に起因する沖縄県全体の社会課題を解決していくことも視野に入れて、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定したところである。	
胡屋 大通り会	基幹バス構想が実現する時期を教えてください。	(沖縄県 企画部交通政策課) 令和 9 年度に山里から普天間(那覇向け)のバスレーン延伸を予定しており、関係市町村やバス会社と連携して進めていきたい。
合同会社 イドムス (随行)	地域としてウォークアブルについて勉強会を自主的に実施している。地域が盛り上がらないといけないという認識のもと、商店街関係者や地元住民が一丸となって進めていけるように地域として機運醸成を図っている。	
池田委員長	- 基本的には提案されている構想(案)の枠組みで良いか了承をいただけるか。 - 事務局で、今日の意見を踏まえた文言の修正や提案事項を反映していただきたい。	(一同) 異議なし

沖縄市交通拠点まちづくりの 検討について

令和6年10月2日（水）

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

年度	沖縄市の取組み (国道330号沿道まちづくり)	沖縄県公共交通活性化推進協議会の取組み (基幹バスシステムの導入等)	国のうごき (国道330号改良等)
H20		『那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市(・北中城村※1)地域公共交通総合連携計画』の策定 ▶ 基幹バスの交通結節点(沖縄市)は「コザについてはバスターミナルを形成」	
H21	土地利用計画構想(案)の策定 (胡屋～コザ)		(沖総局)H22～コザ十字路交差点改良工事着手
H23	壁画及び広場の実施設計(コザ)	『連携計画』の改定 ▶ 基幹バスの交通結節点(沖縄市)は「コザ～胡屋についてはリニアバスターミナルを形成」	
H28	沿道まちづくりビジョン(案)の策定 (胡屋) ▶ 国道拡幅や交通モード(基幹バス～鉄軌道)に応じた段階的なまちづくりをイメージ	『連携計画』の改定 ▶ 基幹バスの交通結節点(沖縄市)は「コザ～胡屋についてはリニアバスターミナルを形成」	(沖総局)胡屋北交差点改良に係る都市計画決定(都計道3・4・1国道330号)
R1	まちづくり会社設立支援、拠点施設(広場)等の検討(胡屋)		
R2	地区計画等の検討(胡屋)	本市の沿道まちづくりと連携した交通結節点の重要性を確認 → 沖縄市としては「胡屋」	改正道路法(R2.11施行) ▶ 民間と連携した新たな交通結節点づくりの推進など
R3	交通・回遊機能等の検討(胡屋) ▶ リニアバスターミナルを見直し、胡屋とコザで機能分担を図る	『連携計画』の改定 ▶ 基幹バスの交通結節点(沖縄市)は「沖縄市の国道330号胡屋地区沿道まちづくりと連携した交通結節点を形成」	『交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン』発出(R3.4)
R4	沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会 ▶ 本構想の検討(胡屋) 沖縄市総合交通戦略を見直し		【沖総局】 胡屋・中央地区の交通拠点に関する調査を実施
R5	第二期沖縄市総合交通戦略を策定 第三期沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定		
R6	基本構想策定(基本構想R6年6月) 沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会	沖縄県地域公共交通計画策定(R6.5)	【沖総局】 「交通拠点の機能強化に関する整備方針の検討」へ進展

(仮称)胡屋地区交通結節点整備検討委員会(市・県・国)

- 沖縄市では、交通拠点やバス路線網の議論を行っている国や県と連携しながら、胡屋・中央地区バスタと連携した周辺まちづくりについて検討を行う。

■(仮称)胡屋地区交通結節点整備検討委員会・公共交通活性化推進協議会との連携・役割分担

沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会

【主な役割】

- ・胡屋・中央地区バスタと連携した交通拠点まちづくりの検討

【事務局】

- ・沖縄市



連携

連携

(仮称) 胡屋地区交通結節点整備検討委員会

【主な役割】

- ・全体取りまとめ・総括
- ・各検討会での議論を踏まえた交通拠点に導入すべき
具体機能の検討

【事務局】

- ・沖縄市、沖縄県、沖縄局南部国道事務所

沖縄県公共交通活性化推進協議会

【主な役割】

- ・基幹バスシステムの導入、バスレーン

【事務局】

- ・沖縄県

連携

- 過年度では、関係者と連携、地域への合意形成や機運醸成を図りながら、**沖縄市交通拠点整備基本構想を策定**した。
- 令和6年度では、基本構想で位置付けた**施策の実現**に向けた検討及び機運醸成を図りながら、**沖縄市交通拠点まちづくり基本計画(案)の検討**を行う。

- 1) 機運醸成及び合意形成手法の検討
- 2) 基本構想の実現に向けた方面別取組の検討
- 3) ウォーカブルエリアの実現に向けた検討
- 4) 連携施策の検討
- 5) 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画（案）の作成

1) 機運醸成及び合意形成手法の検討

① 機運醸成及び合意形成手法の検討

- 基本計画(案)の検討にあたり、地域意向の把握、地権者との合意形成、関係者等の機運醸成等を目的として当該地域に適した手法の検討を行う。

② 関連する取り組みの実施

- ①の検討結果を踏まえ、講演会やイベント等を通して、公民学の連携や組織構築につながる取組を実施する。

■ イベントに合わせた周知活動



■ 講演会による機運醸成



2)基本構想の実現に向けた方面別取組の検討

- 基本計画(案)の検討にあたり、基本構想で位置付けた方面別の取組案について、概算、補助活用、スケジュールの可能性、役割分担等より具体的な検討を行う。

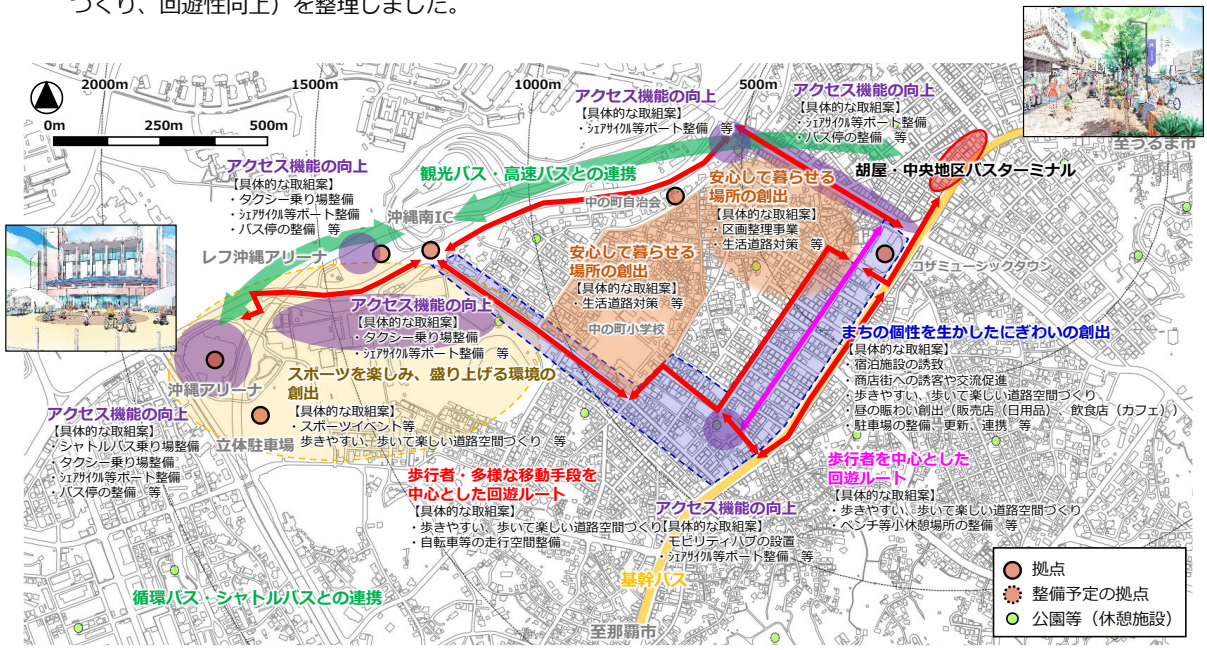
■検討イメージ

基本構想 ①沖縄アリーナ方面

①沖縄アリーナ方面

- 1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
- 2. まちの個性（商業・文化・歴史）を活かしたにぎわいの創出
- 3. 安心して暮らせる環境の創出

・ 沖縄アリーナ方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



具体的な取組案	スケジュール	概算	補助	役割分担
歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり	RO	...	○	行政
シェアサイクル等ポート整備	RO	...	×	企業
区画整理事業	RO	...	○	行政
...	RO	...	○	民間

出典：沖縄市交通拠点整備基本構想

3)ウォーカブルエリアの実現に向けた検討

ウォーカブル推進計画(案)の検討

- 基本構想で設定したウォーカブルエリアに関して、ウォーカブルな環境づくりを推進するための理念や目標、エリアの考え方を整理するとともに、ウォーカブルエリアの実現につながる実証実験を実施し、その効果も踏まえ、胡屋・中央地区バスタとの連携を考慮した推進計画(案)の検討を行う。

■ウォーカブルエリアイメージ



■島根県出雲市(神戸通り)

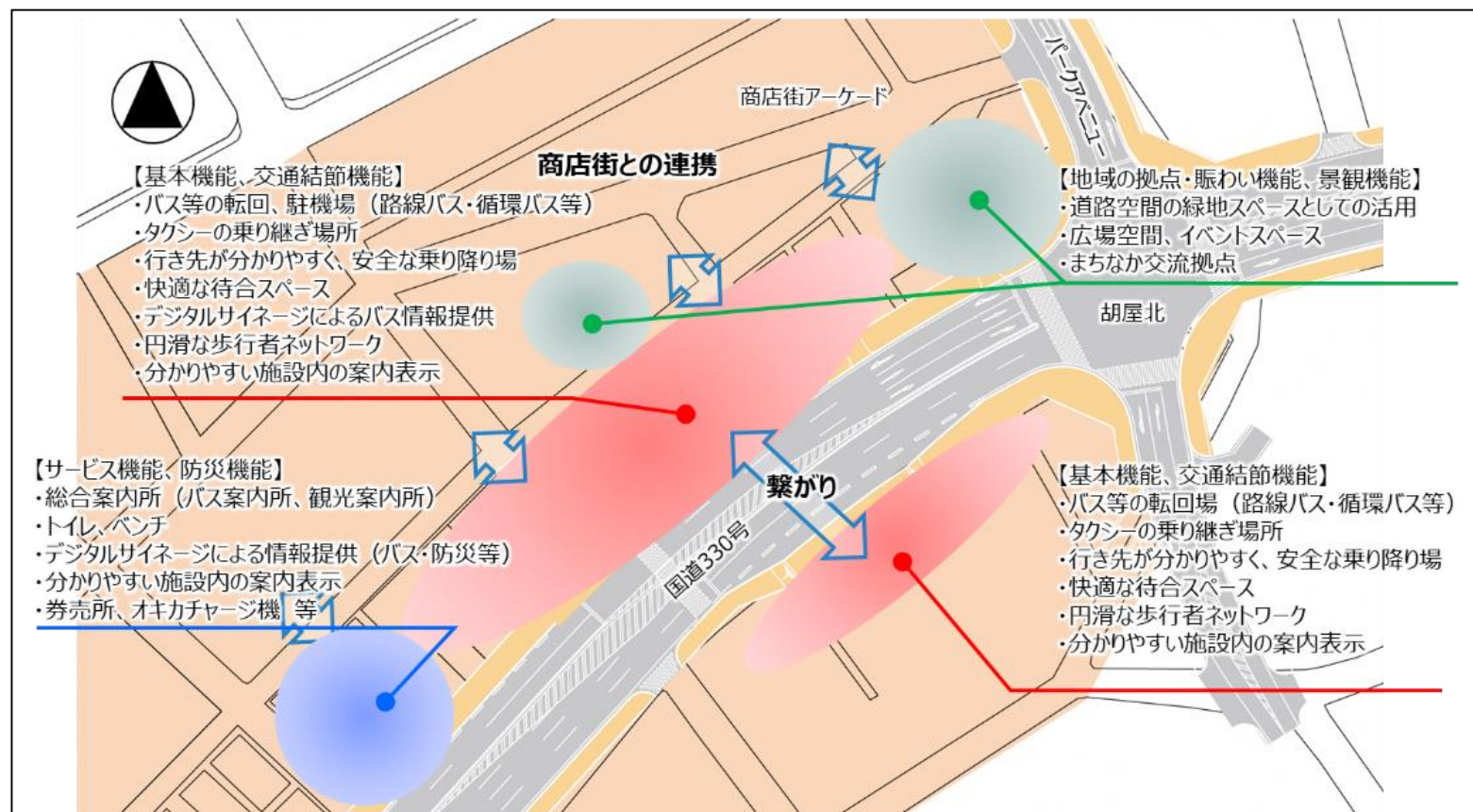


出典:WALKABLE PORTALサイト(国土交通省HP)

4) 連携施策の検討

■ 胡屋・中央地区交通結節点整備

- ・ 広場空間の必要性について検討を予定。



出典：中央通り再編関係者調整会議資料(四日市市)

4)連携施策の検討

■まちなか交流拠点創出に向けた検討

- 胡屋・中央地区バスターミナルを地域に根ざした拠点としていくため、地域の歴史・文化等、沖縄市らしさを持つまちなか交流拠点のデザイン検討を行う。拠点の検討にあたっては、検討部会等を設置し具体検討を進める。



愛媛県松山市アーバンデザインセンター

■循環バスの検討

- 市循環バスの再編イメージの検討に向けて、ビッグデータ(人流プローブ等)や、国勢調査データ(夜間人口)等を活用し、効率的な市内のバス網イメージの検討を予定。

5)交通拠点まちづくり基本計画(案)の作成

- これまでの検討内容や1)～4)での検討結果を踏まえて、(仮称)沖縄市交通拠点まちづくり基本計画(案)としてとりまとめる。

今後のスケジュール(案)

検討項目	令和6年					令和7年			備考
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(1)機運醸成及び合意形成手法の検討	準備			周知	★	地域、地権者を対象とした説明会 & ws			
				準備			周知	★	講演会等
(2)基本構想の実現に向けた方面別取組の検討									
(3)ウォークブルエリアの実現に向けた検討									推進計画の検討
	検討・準備				周知			実証実験の実施	
	市社会実験								
(4)連携施策の検討									
(5)交通拠点まちづくり基本計画(案)の作成									
(6)検討委員会の開催			★				★		
(7)庁内連絡会の開催		★					★		
(8)検討部会				★		★			

10

課題

- 沖縄市胡屋中央地区(以下本地区)は、市における再開発とともに、国においてバスタが計画されており、調査を進めているところ。
- 本地区は、多くの路線バスとコミュバスがあるものの、結節が悪く利便性に課題があり、公共交通利用が少ない状況。
- また市内の周辺エリアには、沖縄アリーナをはじめとする周辺の施設において、様々なイベントが開催されているが、公共交通の利用が少なく、交通渋滞が課題。
- 本地区の中央パークアベニューは現在道路の拡幅計画があり、賑わいの形成は地域住民の意見を反映した形で事業を進める必要がある

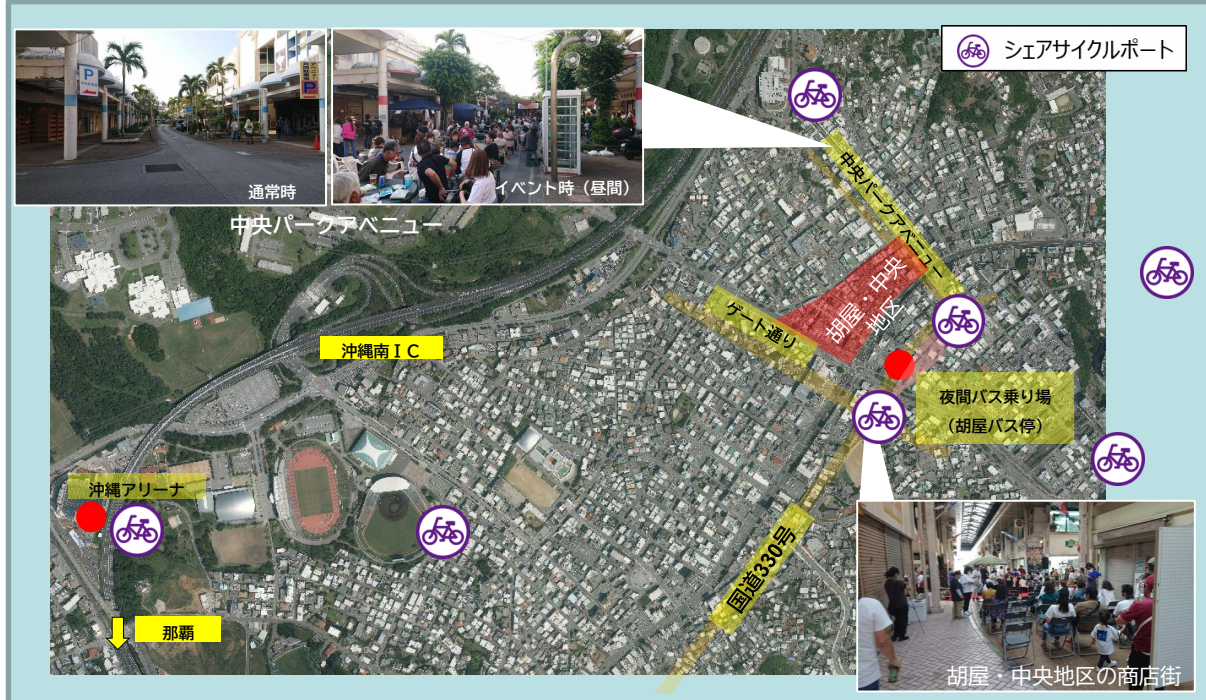
解決策

- 本地区を訪れる人がどういった回遊行動や対流を示すかを評価分析し、それに応じたまちづくりと一体となったバスタ計画(施設配置等)を立案。
- 本地区で検討しているバスタの構想として、本地区に隣接する賑わいを創出する中央パークアベニューへの立ち寄りを促すため、本地区とアリーナ地区との結節を高め、利便性向上を図り、移動手段を確保する。
- 上記を踏まえ、中央パークアベニューの道路計画に際して、WISNETにも記載のある道路空間の再配分を実現する

実施内容

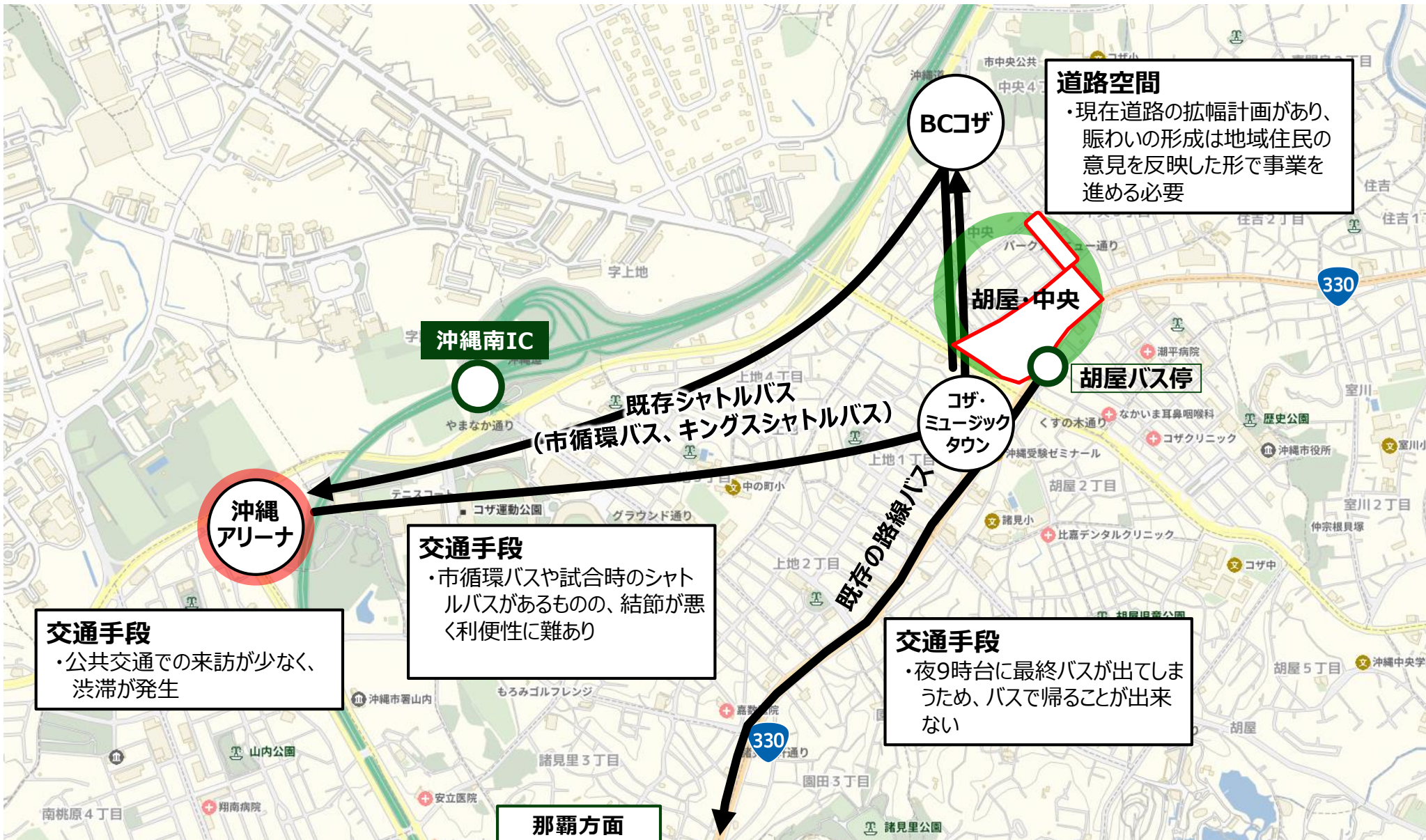
- イベントのある週末に、本地区に「仮想バスタ」を設定し、隣接する中央パークアベニューを歩行者専用の道路空間とし、中央パークアベニュー、国管理の国道330号をはじめ、本地区周辺における人流データを取得し、にぎわい創出(集客、滞留等)や回遊性を分析・検証する。
- アリーナと本地区を無料シャトルバスで、また、夜間バス乗り場を用意し、高速道路経由で那覇のモノレール駅を無料バスで結び、公共交通の利用促進を図る。
- 公共交通の利用促進および市内の回遊を促進するため、バス利用者に対して企画イベント(クーポンの配布等)を併せて実施する。来場者等に対しては、アンケート等を実施。

資料4



※内容については、検討委員会に諮り、最終決定しますので、内容が変更になる可能性があります。

現状と課題～

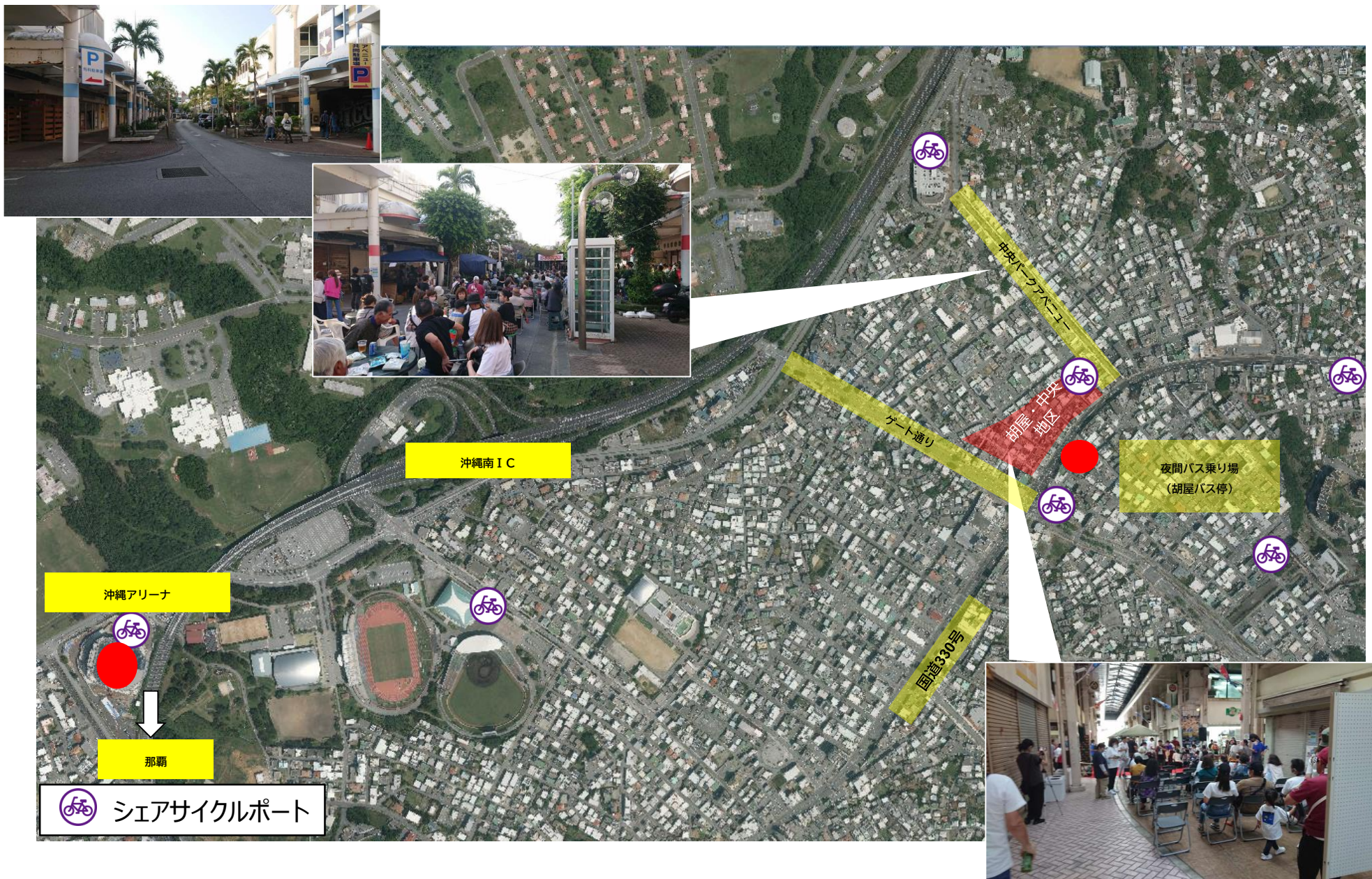




社会実験実施地域の位置関係（沖縄県中南部）



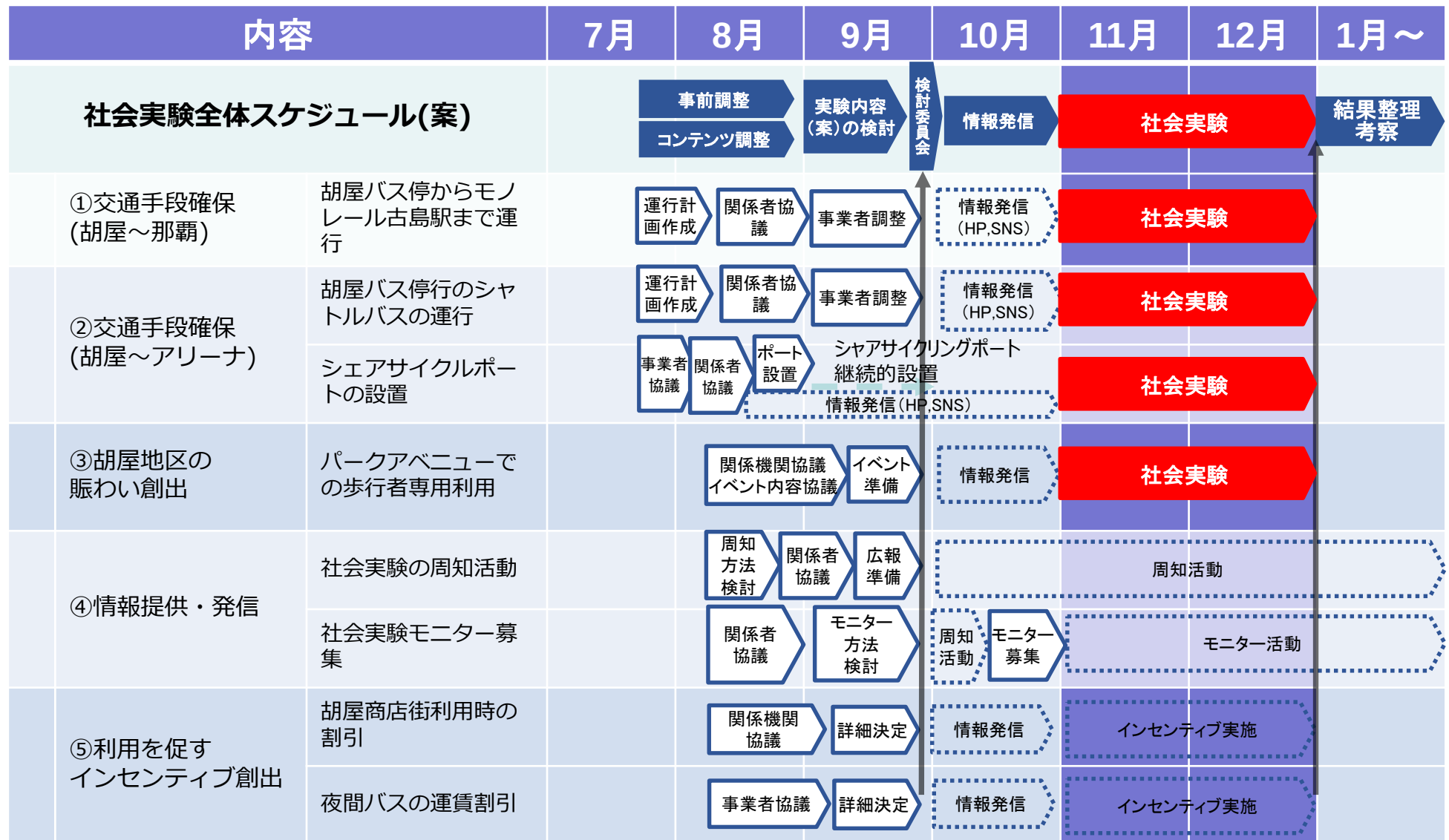
社会実験実施地域の位置関係（実施メニュー）



実験メニュー (調査メニュー)	手法	検証項目 (調査項目)	検証方法 (調査方法)	評価基準・目標値
胡屋地区周辺における賑わい創出	イベント実施	歩行者量の変化 ※	歩行者交通量調査 (主要2～3断面)	・ 平常時と比べ、中心地の歩行者交通量が増加
		自動車交通状況の変化 ※	プローブデータ分析	・ 基礎情報として把握
		アリーナ等施設利用者の胡屋地区周遊割合 ※	人流データ分析	・ 平常時に比べ、胡屋地区への立ち寄り割合の増加
		胡屋地区来訪者の滞在時間 ※	〃	・ 平常時に比べ、胡屋地区での滞在時間が増加
		胡屋地区来訪者の満足度	来訪者アンケート	・ 「満足」、「やや満足」の回答者が70%以上
イベント開催に合わせたバスの運行	シャトルバス	バス利用者数	乗降客数調査	・ 基礎情報として把握
		バス利用者割合	イベント来場者アンケート	・ バス利用者割合6%※ ¹ 以上 ・ ※ ¹ 第二期沖縄市総合交通戦略における現況値
		自動車から公共交通への転換	利用者アンケート	・ バス利用者割合6%※ ¹ 以上 ・ ※ ¹ 第二期沖縄市総合交通戦略における現況値
		バスの満足度	利用者アンケート	・ 「満足」、「やや満足」の回答者が70%以上
シェアサイクルポートの設置	レンタサイクル	シェアサイクル利用者の満足度	利用者アンケート	・ 「満足」、「やや満足」の回答者が70%以上
※南部国道事務所協力での実施。				

事項に関するスケジュール～

※取り組みの**中身に関わることは、事前情報発信までに**



「胡屋・中央地区交通拠点におけるにぎわい創出の社会実験」

実験計画書

(沖縄県沖縄市)

1. 実験の概要

1.1. 実験の背景

1.1.1. 実験地域の概要

現在、検討を進めている交通結節点想定箇所である胡屋・中央地区は、国道330号を中心に通過する路線バス系統が集中しており、基幹バスシステムの交通結節点に位置付けられている。周辺には沖縄アリーナや沖縄こどもの国など回遊性の向上に寄与する主要施設が点在している。また、当該地域の商店街は、市内商店街のうち営業店舗数も多く、新規出店も見られる地域である。

また、胡屋・中央地区に隣接している中央パークアベニューは現在、道路の相互通行化計画がある。(現在は一方通行)

1.1.2. 実験地域で発生している事象

胡屋・中央地区の周辺エリアには、沖縄アリーナをはじめとする周辺の施設において、様々なイベントが開催されているが、公共交通の利用が少なく、交通渋滞が課題となっている。また、イベント時に胡屋・中央地区に立ち寄る方が少ない状況が見受けられ、イベント時に胡屋・中央地区内への滞留時間を高めること、回遊性を高めることが課題となっている。

1.1.3. 事象を引き起こしている要因

胡屋・中央地区は国道 330 号を多くの路線バスが運行し、また、市内を循環するコミュニティバスも通過しているものの、それらのバスや周辺施設との結節が悪く、回遊性や利便性に課題があるためと考えている。また、胡屋・中央地区は飲食を中心とした店舗が集積しているが、沖縄アリーナ方向からの観客のための取組みに工夫が必要と考えられる。

1.2. 実験の目的

1.2.1. 実験地域が目標とする状態

沖縄市交通拠点整備基本構想に描く交通拠点と周辺都市間を結び、胡屋・中央地区へのにぎわい創出及び公共交通の利用促進につなげ、中央パークアベニューの道路計画に際して、WISENET にも記載のある道路空間の再配分を実現させる。

1.2.2. 実験地域が解決すべき事象

胡屋・中央地区の結節の不便性を解消し、また、道路空間を活用して賑わいを創出する。

1.2.3. 事象を解消するための対応策

胡屋・中央地区に「仮想バスタ」を設定し、隣接する中央パークアベニューに歩行者専用の道路空間をつくり、中央パークアベニュー、国管理の国道 330 号をはじめ、胡屋・中央地区周辺のにぎわい創出、回遊性向上を図る。

合せて、本実験で、沖縄アリーナと胡屋・中央地区をシャトルバスで結び、また、胡屋バス停からの夜間バスを用意し、高速道路経由で那覇市内のモノレール駅を結ぶことで公共交通利用促進を図る。

2. 実験実施体制

2.1. 協議会の構成、役割分担

沖縄市交通拠点整備基本計画検討委員会（仮）		
組織名（団体名）	代表者名	本事業における役割
・ 琉球大学	池田 孝之名誉教授	委員長
・ 琉球大学工学部工学科	神谷大介准教授	副委員長
・ 社会基盤デザインコース		
・ 胡屋自治会	島袋 恭治会長	委員
・ センター自治会	松田 健治会長	委員
・ 中の町自治会	宮城 宏治会長	委員
・ まちづくり NPO まち社中	照屋 幹夫理事長	委員
・ 社会福祉法人沖縄市社会福祉協議会	上原 健次事務局長	委員
・ 一般社団法人沖縄市観光物産振興協会	島袋 隆会長	委員
・ 沖縄市一番街商店街振興組合	親川 剛理事長	委員
・ 沖縄市サンシティ商店街振興組合	高良 剛理事長	委員
・ 沖縄市センター商店街振興組合	照屋 林正会長	委員
・ コザゲート通り会	安川 祐也会長	委員
・ コザパルミラ通り会	普久原 朝太会長	委員
・ 胡屋大通り会	普久原 朝秦会長	委員
・ 合同会社イドムス	仲程 誠代表社員	委員
・ 沖縄商工会議所 中小企業振興部	比嘉 正也部長	委員
・ 一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春専務理事	委員
・ 沖縄バス株式会社	大城晃取締役運輸部長	委員
・ 東陽バス株式会社	比嘉 良尚運輸部次長	委員
・ 株式会社 琉球バス交通	小川 吾吉代表取締役	委員
・ 一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	大城 直人専務理事	委員
・ 内閣府沖縄総合事務局開発建設部道路建設課	具志堅 清一課長	委員
・ 内閣府沖縄総合事務局開発建設部 建設産業・地方整備課	久場 兼治課長	委員
・ 内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室	村上 隼室長	委員
・ 内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所	伊藝 誠一郎副所長	委員
・ 沖縄県企画部交通政策課	平良 秀春課長	委員
・ 沖縄市 企画部	知念 靖部長	委員
・ 沖縄市 建設部	仲村渠 清部長	委員
・ 沖縄市 建設部	川満 輝繁参事	委員
・ 沖縄市 経済文化部	花城 博文部長	委員

2.2. 合意形成状況

実験メニュー（大項目）	関係者	合意形成状況
胡屋地区周辺における賑わい創出	道路管理者（沖縄市道路課） 沖縄警察署 センター商店街振興組合 中央パークアベニューテナント会 沖縄市文化芸能課 沖縄市観光スポーツ振興課 沖縄市商工振興課 センター自治会 一番街商店街振興組合（キングス商店街） 沖縄バスケットボール株式会社	今後調整 事前説明済 事前説明済 事前説明済 事前説明済 事前説明済 事前説明済 事前説明済 事前説明済 事前説明済
イベント開催に合わせたバスの運行	沖縄県バス協会 沖縄警察署 那覇警察署 道路管理者（南部国道事務所） 公園管理者（沖縄市公園みどり課） すこやかホールディングス レフ沖縄アリーナ by ベッセルホテルズ 循環バス運転手 沖縄バスケットボール株式会社	事前説明済 事前説明済 今後調整 今後調整 今後調整 今後調整 今後調整 今後調整 事前説明済
シェアサイクルポートの設置	シェアサイクル事業者 ポート設置場所管理者	今後調整 今後調整

2.3. 事務局、問合せ先

所在地： 〒904-8501 沖縄市仲宗根町26番1号

担当部課（部署）： 沖縄市役所 建設部 都市整備室 都市交通担当

連絡先 電話番号： 098-989-9135

F A X : 098-939-7341

E-mail : a61koutu@city.okinawa.lg.jp

2.4. 緊急時連絡網

事務局、問合せ先と同じ

3. 実験計画

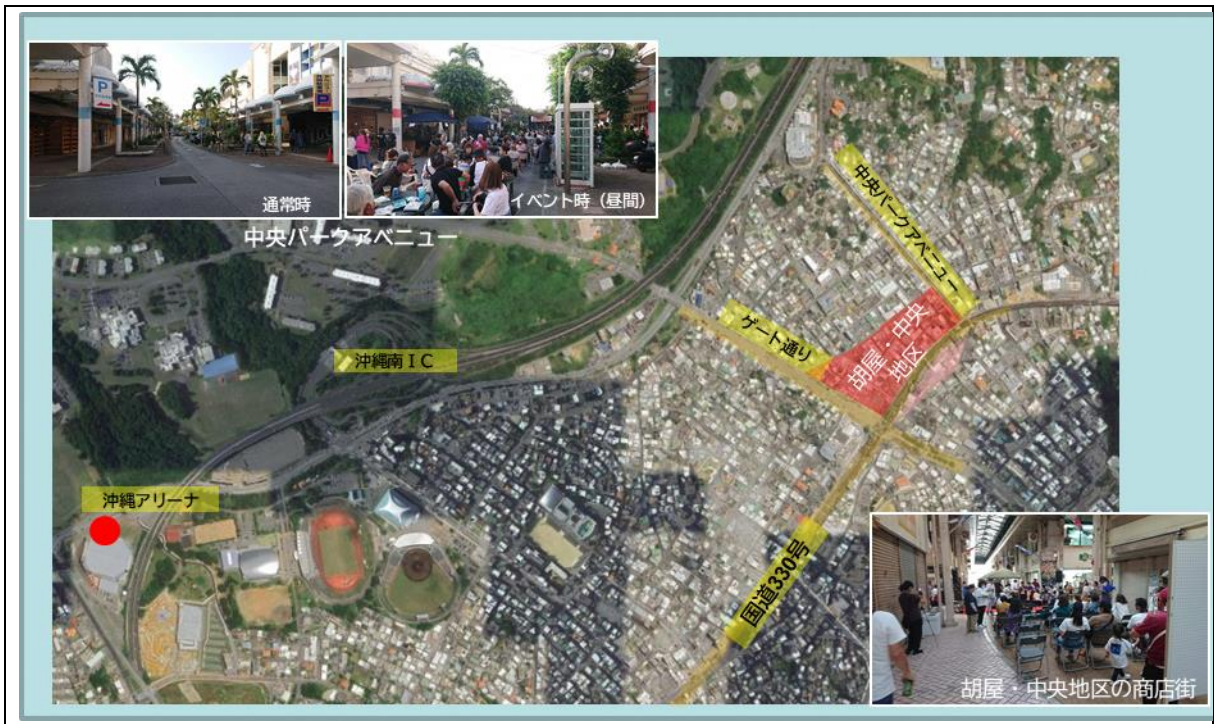
3.1. 実験内容

3.1.1. 実験メニュー

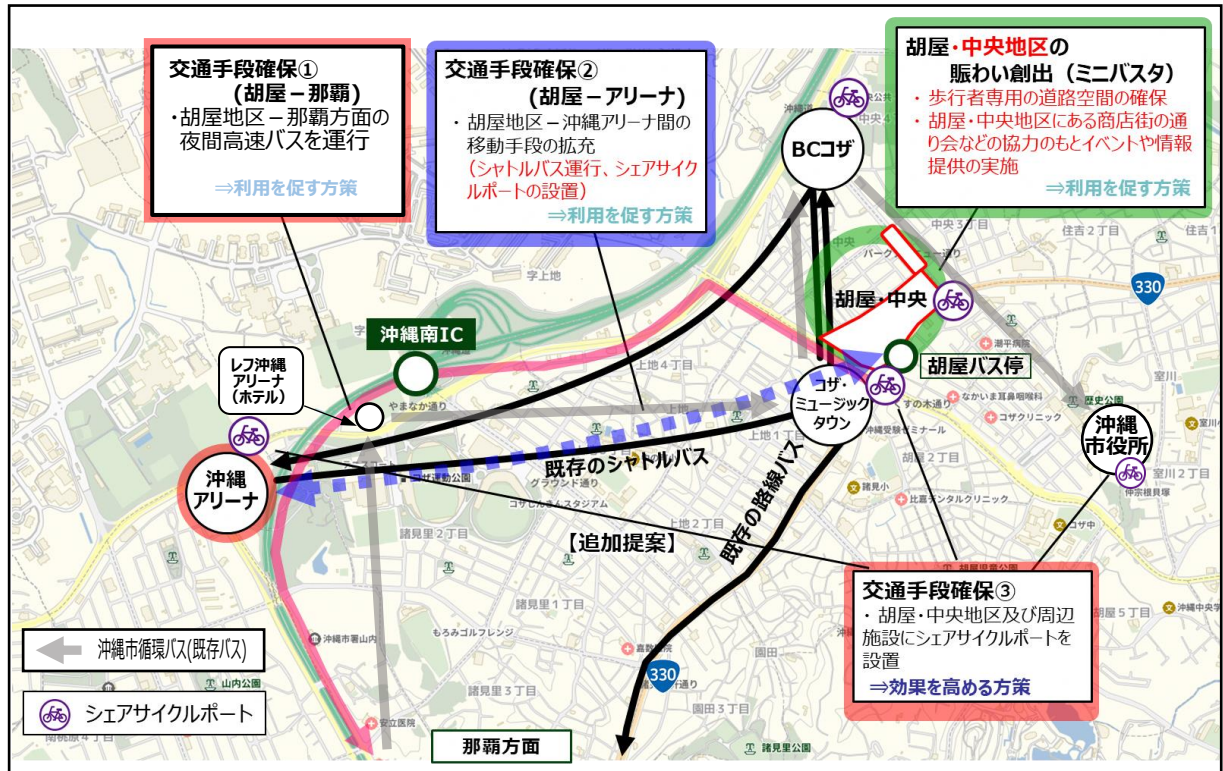
実験メニュー（大項目）	手法	実験内容
胡屋地区周辺における賑わい創出	【25】イベント実施 【27】歩行者天国	・通常は一方通行である中央パークアベニューの一部を通行止めし、歩行者専用道路として活用する。 ・実施日は、琉球ゴールデンキングスのシーズンである11月及び12月に各1回の計2回を予定する。 ・沖縄アリーナにおける興行（プロバスケットボールやコンサート等）に合わせ、興行内容と連携したコンテンツや通り会・地域主催のイベントとの連携により、沖縄アリーナ方面から胡屋・中央地区への誘客（移動）を図り、胡屋・中央地区のにぎわい創出に資する取組みを実施する。 ・歩行者専用の道路空間においては、キングスや中央パークアベニュー沿道店舗などに関連したブースや屋台等を設置し、飲食空間（イス、テーブル等）や文化・芸能等の発表の場などを設けることを想定している。（具体的には今後調整予定） （参考）沖縄アリーナ興行日程（11月・12月） 【11月】 6日（水）、30日（土） 【12月】 1日（日）、7日（土）、8日（日）、11日（水） 14日（土）、15日（日）、21日（土） 28日（土）、29日（日）
イベント開催に合わせたバスの運行	【21】シャトルバス（胡屋・那覇間、アリーナ・胡屋間）	○胡屋地区から那覇方面への夜間バスを運行予定。 運行ルート（案）：胡屋バス停→国道330号→市道総合グランド通り線→沖縄自動車道（沖縄南IC→西原IC）→国道330号→古島駅前バス停 運行日は、期間中の土日を予定。 運行時間は、路線バスの最終便以降を考慮し、22:30と23:00の2回を予定。 ○沖縄アリーナから胡屋地区の移動手段の拡充 沖縄アリーナ付近から胡屋バス停までシャトルバスを運行予定。 イベント終了後1時間程度運行予定。
シェアサイクルポートの設置	【28】レンタサイクル	胡屋・中央地区及び周辺の公共施設等にシェアサイクルポートを設置し、まちなかの回遊性向上を図る。



社会実験実施地域の位置関係（沖縄県中南部）



社会実験実施地域の位置関係（実施メニュー）



3.1.2. 検証項目、検証方法、評価基準

実験メニュー — (調査メニュー)	手法	検証項目 (調査項目)	検証方法 (調査方法)	評価基準・目標値
胡屋地区周辺における賑わい創出	【25】イベント実施	歩行者量の変化 ※	歩行者交通量調査 (主要2～3断面)	・平常時と比べ、中心地の歩行者交通量が増加
		自動車交通状況の変化 ※	プローブデータ分析	・基礎情報として把握
		アリーナ等施設利用者の胡屋地区周遊割合 ※	人流データ分析	・平常時に比べ、胡屋地区への立ち寄り割合の増加
		胡屋地区来訪者の滞在時間 ※	〃	・平常時に比べ、胡屋地区での滞在時間が増加
		胡屋地区来訪者の満足度	来訪者アンケート	・「満足」、「やや満足」の回答者が70%以上
イベント開催に合わせたバスの運行	【21】シャトルバス	バス利用者数	乗降客数調査	・基礎情報として把握
		バス利用者割合	イベント来場者アンケート	・バス利用者割合6%※1以上 ※1 第二期沖縄市総合交通戦略における現況値
		自動車から公共交通への転換	利用者アンケート	・バス利用者割合6%※1以上 ・※1 第二期沖縄市総合交通戦略における現況値
		バスの満足度	利用者アンケート	・「満足」、「やや満足」の回答者が70%以上
シェアサイクルポートの設置	【28】レンタサイクル	シェアサイクル利用者の満足度	利用者アンケート	・「満足」、「やや満足」の回答者が70%以上
※南部国道事務所協力での実施。				

3.2. 実験スケジュール

事項に関するスケジュール～

内容		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月～
社会実験全体スケジュール(案)		事前調整 コンテンツ調整		実験内容 (案)の検討	情報発信	社会実験		結果整理 考察
①交通手段確保 (胡屋～那覇)	胡屋バス停からモノ レール古島駅まで運 行	運行計 画作成	関係者協 議	事業者調整	情報発信 (HP・SNS)	社会実験		
②交通手段確保 (胡屋～アリーナ)	胡屋バス停のシャ トルバスの運行 シェアサイクルポ ートの設置	運行計 画作成	関係者協 議	事業者調整	情報発信 (HP・SNS)	社会実験		
③胡屋地区の 賑わい創出	パークアベニューで の歩行者専用利用		関係者協 議	イベント 準備	情報発信	社会実験		
④情報提供・発信	社会実験の周知活動 社会実験モニター募 集	周知 方法 検討	関係者 協議	広報 準備	周知 活動	モニター 募集	モニター 活動	
⑤利用を促す インセンティブ創出	胡屋商店街利用時の 割引 夜間バスの運賃割引		関係機関 協議	詳細決定	情報発信	インセンティブ実施	インセンティブ実施	

※取り組みの進捗に関する情報は、事後情報発信までに

3.3. 広報、周知方法

広報媒体	概要	実施期間	対象者	数量
広報誌への掲載	沖縄市及び沖縄県などの広報誌等への掲載	社会実験実施1か月前 10月の広報誌	沖縄市民 市外在住者	今後調整
ホームページ、SNS	ホームページやSNSを利用した社会実験の周知	社会実験実施1か月前から3か月（10～12月）	沖縄市民 市外在住者	今後調整
ポスター掲示	市内自治体、イベント施設や公共施設等へのポスター掲示	社会実験実施1か月前から3か月（10～12月）	沖縄市民 市外在住者 施設等利用者	今後調整

別表1 実験手法一覧

番号	手法	番号	手法
1	一方通行化	26	オープンカフェ
2	一般車進入制限	27	歩行者天国
3	車両通行止め	28	レンタサイクル
4	狭さく	29	サイクルポート
5	立体ハンプ	30	通り名
6	イメージハンプ	31	道案内
7	クランク、シケイン	32	ラウンドアバウト
8	ボンエルフ	33	ICT技術の活用
9	路上荷捌き場	34	広告料収入の維持管理への充当
10	路外荷捌き場	35	SA・PAの活用
11	駐車場情報提供	36	維持管理活動
12	タクシーベイ	37	景観の維持管理
13	自転車駐輪場	38	交通規制
14	歩道上の自転車通行帯	39	シェアリング（車、自転車）
15	車道上の自転車通行帯	40	車道の路面表示等
16	歩道確保	41	たまり空間の創出
17	歩道拡幅	42	無雪化
18	トランジットモール	43	その他駐車場関連
19	道路情報提供	44	その他パーク＆ライド
20	循環バス	45	その他バス関連
21	シャトルバス	46	その他
22	バス位置情報提供		
23	パーク＆レールライド		
24	パーク＆バスライド		
25	イベント実施		